

平成25年度 胎内市図工・美術部 活動報告

部長 八木 恵子（胎内市立きのと小学校）

1 研究主題

感性を働かせて生き生きと創造活動をする子どもの育成

2 研究内容の概要

- (1) 活動計画立案と実践上の情報交換（5月16日）
- (2) 長谷川重雄様（新発田市立藤塚小学校校長）「いろいろな技法～色と形と材料との戯れ～」の実技講習会（8月1日）
- (3) 丹後直子様（築地中学校教頭）「水彩画の基本」の実技講習会（8月7日）

3 研究の実際

- (1) 長谷川重雄様（新発田市立藤塚小学校校長）「いろいろな技法～色と形と材料との戯れ～」の実技講習会（8月1日）

〈概略〉

- ・指導者が様々な技法を経験することが大切である。
- ・技術のみの無意識的な量産作業とならないように、ただ楽しいだけの作業で終わらないように、ねらいやイメージの広がりを意識させる。
- ・技法は、特に小学校においては意図的な造形遊びや意図的な描画とは異なり、偶発的な要素のある新鮮な体験、想像画のきっかけとして活用することが考えられる。
- ・マーブリング、スパッタリング、シャボン、ストリングの技法を学び、実技研修を行った。

- (2) 丹後直子様（築地中学校教頭）「水彩画の基本」の実技講習会（8月7日）

〈概略〉

- ・図工・美術は多様な結果を求める唯一の教科である。子どもが感性を働かせて生き生きと創造活動ができるようにするための教師の意識・働きかけが重要である。
- ・表現を、子どもと一緒に楽しむ。一人一人の表現、それ自体が美しく意味あるもの。子どもが何を感じ、何を人に伝えようとしているのか作品を通して感じてほしい。
- ・水彩画の基本として、絵の具、筆、筆タオル、パレット、筆洗等の使い方、紙の種類も学んだ。
- ・水彩画の技法の混色、重色、ぼかし等を学んだ。学んだ技法を生かし、光の当たるボールを描いたり野菜を描いたりした。



4 成果と課題

実技講習は、まとまった時間が必要なため、夏休みに2回の研修を行ったことはよかった。また、子ども一人一人の表現を大切にするためには、教師自身の技法の蓄積が不可欠であり、講習会はそのよい機会となった。

実技講習会で学んだ技法を、子どもの思いを表現させるためにいかに生かしていくかが大切となる。実際に効果的に使われている作品をより多く鑑賞し、講評を聞き、様々な視点から作品を見る目を養うことも必要であると感じた。